

1. 調査報告概要表

作成日 平成 21年 4月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	4270101803
法人名	(株)長健工務店
事業所名	グループホーム桜坂・長崎
所在地	長崎県長崎市本河内2-14-2 (電 話) 095-820-1424
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成 21 年 3 月 28 日

【情報提供票より】(平成21年 1月 28 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	6 人
利用定員数計	9 人
常勤 6 人, 非常勤 1 人 常勤換算 6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1 ～ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	42,300円		その他の経費（月額）	5,000円	
敷金	無				
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		570円		

(4) 利用者の概要(3 月 28 日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護 1	0 名	要介護 2	2 名		
要介護 3	5 名	要介護 4	1 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 90 歳	最低 79 歳	最高 102 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山本内科医院、岩本歯科、十善会病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者の親族の思いである、高齢者や身体に障害のある人が安心して住める社会作りを目指し、差別なく誰でも入れるグループホームをとの願いが込められている。事業所は運営者の育った家をホームにしている。まさに家であり、地域との繋がりは深い。ホーム内外には犬や猫が数匹おり、利用者は動物と共に暮らす和やかな雰囲気がある。リビングでは大きなテレビの前で皆が過ごしたり、中には好みのDVDで楽しんでいる利用者もいる。運営者は職員に利用者の尊厳を厳しく指導しており、言葉遣いや記録においても徹底されている。常に利用者の事を考え、足浴や浴槽の改装、個々の部屋にまで加湿器が設置されている。身よりのない方には運営者夫婦が病院の世話から、葬式、納骨まで行うなど最後まで尊厳を重んじる支援がされている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果は職員にもミーティングにて伝えられている。改善項目である職員研修や、同業者との交流、相談窓口明記は運営者により改善されている。評価の意義や振り返りにおいては、常時職員業務の中でも細かくチェック、伝達されるなどしている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価においては運営者が意義を理解しており、日頃から内容の必要性がミーティングにおいても話されており、職員も重視している。用紙は職員に渡され、解る所を記入し管理者が作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は実施しているが2か月に1回の開催までには至っていない。参加メンバーとして利用者、家族代表、すこやか支援課職員、包括支援センター職員、民生委員、婦人部長、町内会長、運営者、管理者である。内容は事業所内の利用者の様子や職員の研修内容、参加者による意見交換などである。地域全体の高齢化による介護相談員の受け入れや認知症の様子や説明などしている。又地域全体による避難訓練の提案などもあり、6月に予定がされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会が頻繁なため、面会時に意見や要望が聞けるようにしている。玄関に意見箱が設置されており、又「苦情ノート」や「記録報告書」を設け、その都度何かあれば管理者や職員で話し合いが行われ反映させている。前回の改善項目であった外部の苦情窓口を重要事項説明書に明記して、意見や苦情の表出に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所自体が運営者の生まれ育った所であり、親族が自治会役員や婦人会で地域における世話役として交流がある。利用者の散歩時には挨拶や会話があり、又ホームの電話番号を近隣の方々が知っている。利用者の徘徊がある場合は近隣の方が知っており、教えてくれたり、警察との連絡も出来ている。保育園児の訪問や中学生の体験学習の受け入れなども行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者が生まれ育った自宅をホームに改装しており、地域住民との繋がりは非常に深い。又親族が以前役員をしており、地域高齢者貢献の願いより理念作成に至っている。「私たちは高齢者や身体に障害のある人が安心して住める社会作りをめざします」は地域に根差した事業所独自の理念としてつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者が理念を大事にしており、職員にも利用者の尊厳を大切にするよう徹底されている。毎日のミーティングや申し送り時の理念の唱和と共に、日々の振り返りの確認を行なうなどして、理念の共有化が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者や運営者の親族が自治会役員として、地域の世話をしている。自治会の祭り参加、老人会の訪問、中学校の職場体験の受け入れ、又ボランティアなどの受け入れを行うなど地域との交流をしている。ホームは運営者の育った場所であるため、地域の方とは古くからの顔馴染みである。日常的に利用者の散歩時などでは、挨拶や声掛けがされるなどの交流がある。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果については、代表、管理者が職員に伝えている。また、自己評価は職員も一緒に取り組む姿勢がある。ただし、自己評価票が前年度のものであり、職員が取り組んだという確認が取れない。また、評価結果の改善点については改善計画シート等を活用し、取り組んだ事実が確認できなかった。	○	自己評価作成は職員全員で取り組むことで、日々の支援の振り返りにもなるため時間をかけて全員で取り組むことが望まれる。また、改善点は改善計画シートを活用し、計画的に取り組む事業所の質の向上に役立ててもらえることを期待したい。

グループホーム桜坂・長崎

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は初回20年2月を含め3回開催している。参加メンバーは利用者、家族代表、すこやか支援課職員、包括支援センター職員、民生委員、婦人部長、町内会長、運営者、管理者である。内容は利用者状況、社内研修の報告、意見交換などである。地域の高齢化があり、介護相談員や、地域ぐるみでの避難訓練などの申し出も受け入れ支援している。ただし2ヶ月1度の実施においては検討中である。	○	運営推進会議の必要性を運営者自らが理解し、参加メンバーも整い交流の場となりつつあるが、利用者の様子や報告、質疑応答になっており会議内容にとまどいが生じている。今後参加メンバーや同業者の意見や助言を受けながら、議題の検討と共に2ヶ月1回行われることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は平成12年当初からの開設であり、市からの依頼で運営者は他のグループホームの指導や、研修を行うなどして福祉向上に努め、市との連携を図っている。又市の介護相談員の受け入れも行っており、事業所の近況報告や相談をするなど、市との行き来が頻繁になされ繋がりがもたれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会が頻繁であり、職員は家族の面会時に日々の暮らしぶりや健康状態を報告している。面会が出来ない家族には電話で報告している。又毎月の請求書送付時に利用者の行事参加の写真を同封するなどしている。金銭管理においては立て替えをしており、明細のコピー領収書と共に送付し同意を得ている。ただし、金銭出納帳における確認印はない。職員異動においては面会時などに家族に報告している。	○	金銭管理においては請求書、領収書を送付し家族の確認もと振込がされているが、金銭出納帳によるお互いの共有のもとでの確認がないため、面会時による金銭出納帳の確認と共に同意印を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が頻繁で、面会時は職員とも会話している。意見や要望が言いやすい雰囲気作りがされており、出された意見などは来訪記録に記録し、その後苦情ノートに記入して職員間で話し合われている。意見箱も玄関に設置されている。又前回の改善項目であった外部相談窓口設置においては、玄関に掲示したり、重要事項説明書にも明記され運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者の尊厳を大切にしており、職員異動には気を使っている。同系列のホームが隣接しており、普段より職員は行き来をし、利用者とは顔馴染みになっている。異動が生じた場合は、慣れるまでは声かけや頻繁に顔を見せに来るなどして、利用者の不安を最小限に抑える配慮がされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員に対して、入社半年、及び1年時に理念を含めた介護におけるテストを実施しており、職員全員のレベルアップが行われている。内部研修は3ヶ月1度議題を変え実施されており、経過報告もされている。職員希望の研修では勤務体制を調整するなどバックアップがなされている。又研修後の資料は誰でもいつでも閲覧できるようファイルしてある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は同業者のホームへ見学へ行ったり情報収集を積極的に行っており、他の事業所から電話で相談を受ける等交流がある。事業所の見学はいつでも受け入れており、職員訪問も行い交流を図っている。運営者は全国グループホーム連絡協議会のメンバーで有り研修も受講し職員へ報告を行い、サービスの質の向上に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の多くは市からの紹介で利用しており、利用開始前に家族と共に事業所見学を行ったり、又管理者が自宅へ訪問し生活歴の把握に努めている。サービス開始後は生活歴に基づきながら、あせらずゆったりと自然に慣れるように工夫している。犬や猫を通じたり、職員が傍で寄り添い声かけや会話をするなどしている。又家族とも電話や面会の回数を増やすなどしながら、馴染むための配慮がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩と仰ぎ、尊厳をもって日々接している。利用者と一緒に生活する中で、昔の体験談を聞いたり、学ぶことも多い、庭に畑があるので一緒につわを取ってつわ剥きや、雑草の花を飾ったり、食事の準備やかたづけなど、出来ることをしながらお互いに支え合う関係作りをしている。又身よりのない方が淋しくないよう家族同様の支援をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々生活する中で職員は「何か話しましょうか」など、常に声かけや会話、寄り添いに心がけている。言葉の不自由な方の場合、顔色や表情で利用者個々の思いや意向を汲み取る努力がされている。気づいたことは申し送り時や記録にて、職員間で共有されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用開始以前に利用者や家族の意見や要望を聞き記録している。利用開始から1週間は利用者の様子を見ながら、生活歴を基にケアマネージャーが介護計画を作成している。作成後は個人日誌にて、プランに応じたケアや個々の状態を記録し、日々午前と午後に職員ミーティングで確認している。又月1度カンファレンスを行い意見交換をしたり、家族や主治医とも相談しながら意見の反映に努めている。ただし介護計画書は事業所独自で作成しており、介護の流れが解りづらい。	○	利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について再度、本人や家族、必要な関係者を含めた意見を反映させた介護計画書を検討し、実践に繋げる工夫と同時に、家族への説明時の同意印が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月1回で行われているが、利用者が入院する事も多い。退院後は身体機能が低下するため、それに伴った見直しが医療機関と相談のうえ行われている。又状態が急変した場合はその都度見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望で教会礼拝、行きつけの美容院、病院介助、自宅へ連れていくなどの支援がされている。又身よりのない方の場合には葬儀や通夜の事までも、ホームで対応するなどの支援がなされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前のかかりつけ医の継続をしている。又週2回協力医院の訪問受診も行われているが、かかりつけ医である歯科、皮膚科の往診も行われている。又夜間対応として、協力医療機関である十善会病院と連携しており、適切な医療をうけられるよう支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについては重要事項説明書に記載し、家族にも説明して同意を得ている。指針として事前に家族からホームでの看取り希望がある場合は、主治医や関係者と相談しながら連携を取りながら行う、と記載している。職員には夜勤を踏まえて、管理者の経験のもと指導を行うなどして全員で方針を共有している。又身よりのない利用者も最後まで尊厳を持って対応する、との運営者の思いで支援している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に関する書類は来訪者の目に触れない場所に保管されている。個人情報に関する書類は家族に説明し同意を得ると同時に、職員の守秘義務に関する誓約書も取っている。特に運営者が利用者の尊厳ということを重視しており、個人誌の記入時の丁寧語の使い方など指導を行っている。又正しい敬語の使い方や声のトーンまで徹底指導がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示のはっきりした利用者には意向に沿った支援をしている。意思表示の困難な方には、その日の様子や体調を見ながら対応している。朝起きや就寝時、又食事時間においても利用者のペースに合わせている。声に出せない方は「どうしますか」と声のトーンにも注意しながら、優しく聞き希望に沿う支援の心がけている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は献立だけでなく、バランスの取り方や色合い、容器にまで気を使いたいとの運営者の考え方から、時には陶器市に出かけて容器類を購入している。食事は職員も一緒にしており、会話しながらの食事である。食後の後かたづけや食器洗い、カーテンの開け閉めなど個々の役割分担があり、出来る限り利用者の残存能力に合わせた支援がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回行われている。入浴時は同性介助や入浴剤を入れるなど利用者が入浴を楽しめる工夫をしている。利用者個々に合わせた温度設定にしており、又お湯は3回目に全部入れ直すなどの配慮がされている。入浴を拒む方には、それとなく声をかけ、体調が悪い方は清拭をしている。利用者が入り易いようにと浴槽を変えたり、足浴を取り入れるなど支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分の部屋よりリビングで過ごす利用者が多く、気軽に話をしたり、洗たく物を干したり、パッチワークをするなどしている。行事を開催するにあたっては、歌の練習をしのど自慢に出ることもある。又気晴らしとしては花見や花火などに出かけるなど支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日は近くの公園まで散歩に出かけたり、ドライブを兼ねて犬を連れて買い物にでかけるなどしている。又ショッピングでは、100円で買える安さが利用者の驚きと楽しさにも繋がっている。利用者が自分の意向を出す方が多いので、希望に沿う支援がされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は夜間以外されていない。普通の家と同じように玄関が開けばチャイムがなり、外来や外出がわかるようになっている。徘徊利用者がいるため、家族の同意を得て近隣住民や警察署に写真を渡すなどして、自由な暮らしを支える支援をしている。又常に利用者と職員が一緒におり、見守りの取り組みをしている。		

グループホーム桜坂・長崎

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営者が地域消防団員であり、非常災害に関する計画を作成し定期的の実施している。ただし予定を決めず運営者判断のもと緊急避難訓練がなされ、どんな時でも対応出来るようにしている。想定場所も変更したり、消防署員指導の基消火器訓練もしている。訓練後は内容を記載し状況、問題点などを挙げ、その後に繋げている。6月は地域ぐるみの避難訓練実施予定である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	運営者自ら献立をチェックしカロリー計算をしている。又個人記録にて個々の食事量が把握されている。一日一品目は野菜を入れ、又果物、牛乳を入れる工夫もされている。水分は一日1300mlを目安に水分チェック表を作成して把握している。寝る時もペットボトルを置くなどして支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のリビングでは利用者が個々に自分の居場所を設けており、普通の家族の住まいになっている。異なったソファ、全員囲んでのテーブル、傍では犬や猫が利用者と共に過ごすなど自由にできる暖かい雰囲気がある。又窓から見える景色は山の緑や紅葉など季節感が感じられる。壁には保育園児のお礼の言葉が貼っており、大きなテレビは利用者の楽しみとなっている。利用者に合わせ所々が改装されるなど居心地よく過ごせる配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はまさに家族の住んでいる部屋となっている。昔風の部屋の作りは懐かしさを感じさせ、落ち着きのある居室となっている。個々に中においてある物はそれぞれ個性があり、利用者によっては洋服をそのまま壁際にかけるなどしている。部屋を挟んだ廊下は温かく、襖での開け閉めは優しさがあり、又各部屋には加湿器が設置され居心地良く暮らせるようにしてある。		

※  は、重点項目。